

SYLLABUS  
シラバス  
令和8年度前期

視能訓練士科 1年次

医療法人社団 慈恵会

神戸総合医療専門学校

視能訓練士科 教育課程（令和8年度前期）

1年次

科目名	単位数	時間数	年次	時期	科目名	単位数	時間数	年次	時期
生物学	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅱ	1	30	2	前期
情報科学	1	15	1	前期	視能矯正学演習Ⅲ	1	30	2	前期
医用英語	2	30	1	前期	視能矯正学演習Ⅳ	1	30	2	後期
心理学	2	30	1	前期	視能障害学Ⅰ	1	30	1	後期
人間関係論	2	30	1	前期	視能障害学Ⅱ	1	30	2	前期
生命倫理学	1	15	2	後期	視能障害学Ⅲ	1	30	3	後期
キャリア教育Ⅰ	1	15	2	前期	神経眼科Ⅰ	1	30	2	前期
キャリア教育Ⅱ	1	15	2	後期	神経眼科Ⅱ	1	30	2	後期
保健体育Ⅰ	1	30	1	前期	眼薬理学	1	30	2	前期
保健体育Ⅱ	1	30	1	後期	視能訓練学Ⅰ(斜視)	1	30	1	後期
基礎医学Ⅰ	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅱ(弱視)	1	30	2	前期
基礎医学Ⅱ	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅰ	1	30	2	後期
人間発達学	2	30	1	後期	視能訓練学各論Ⅱ	1	30	2	後期
保育学	2	30	1	前期	視能訓練学Ⅰ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅰ	1	15	2	後期	視能訓練学Ⅱ演習	1	30	2	後期
臨床医学Ⅱ	1	15	2	後期	視覚リハビリテーション(理論)	1	15	2	前期
臨床心理学	2	30	2	前期	視覚リハビリテーション(実践)	1	30	2	前期
精神衛生学	2	30	2	後期	視能訓練学特論Ⅰ	1	30	3	前期
医療統計学	1	15	2	前期	視能訓練学特論Ⅱ	1	30	3	後期
視能学概論	1	15	1	前期	臨地実習Ⅰ	1	45	1	後期
医療安全管理論	1	15	2	後期	臨地実習Ⅱ	1	45	2	後期
視器の解剖生理Ⅰ	2	30	1	前期	臨地実習Ⅲ	14	630	3	前期
視器の解剖生理Ⅱ	2	30	1	前期	視能学特論Ⅰ	1	30	1	前期
視覚情報処理学	2	30	1	後期	視能学特論Ⅱ	1	30	2	前期
視能検査学総論	2	30	1	前期	総合視能訓練学演習Ⅰ	1	30	1	後期
社会福祉学	2	30	1	後期	総合視能訓練学演習Ⅱ	1	30	2	後期
公衆衛生学	2	30	2	前期	総合視能訓練学演習Ⅲ	1	30	3	前期
専門職連携論	1	15	2	後期	総合視能訓練学	3	90	3	後期
保健医療と福祉	1	15	2	後期					
特別支援教育概論	1	15	2	後期					
基礎視能矯正学Ⅰ	1	30	1	前期					
基礎視能矯正学Ⅱ	1	30	1	後期					
基礎視能矯正学Ⅲ	1	30	2	前期					
幾何光学	1	30	1	前期					
生理光学Ⅰ	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ	1	30	2	前期					
視覚生理学Ⅰ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅱ	1	30	1	後期					
視覚生理学Ⅲ	1	30	2	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅰ	1	30	3	前期					
基礎視能矯正学特論Ⅱ	1	30	3	後期					
生理光学Ⅰ演習	1	30	1	前期					
生理光学Ⅱ演習	1	30	1	後期					
生理光学Ⅲ演習	1	30	2	前期					
視能検査学Ⅰ	1	30	1	後期					
視能検査学Ⅱ	1	30	2	前期					
視能検査学総合演習	1	30	2	後期					
眼科画像解析学	1	30	2	後期					
視能矯正学演習Ⅰ	1	30	1	後期					

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生物学		講義	沖田 章子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
幅広い生物学の中で、医療系の学生として学ばなければならない大きな2つの柱「生物の原理」と「ヒトに関する基本」を修得する。そして、生物学への興味を深め、専門課程を理解できる基礎力をつけることを目的とする。				
授業の到達目標				
1. 細胞の構造と機能を説明できる。	2. 遺伝子とは何かを説明できる。	3. 発生のしくみを説明できる。		
4. 神経のしくみを説明できる。	5. 代謝のしくみを説明できる。	6. 免疫のしくみを説明できる。		
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 学習の進め方 生物とは何か			
2	現代を生きる生命 細胞とDNA			
3	現代を生きる生命 ゲノム			
4	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生			
5	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 発生と遺伝子			
6	生まれ、成長し、死ぬためのしくみ 遺伝子と科学技術			
7	感じ、動くためのしくみ 感覚と神経			
8	感じ、動くためのしくみ 神経系			
9	生きるためのしくみ 代謝			
10	生きるためのしくみ 循環			
11	子孫を増やすしくみ 生殖			
12	環境に適応するしくみ 外的環境への適応			
13	環境に適応するしくみ 免疫			
14	生命が社会を営むしくみ 社会性を生み出す脳			
15	問題演習とまとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	生物の基礎となる仕組みを理解できているかを評価する。		
レポート・課題	20%	授業内容の理解度と課題に取り組む姿勢をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
みんなの生命科学 第2版	北口哲也・坪井貴司・前川文彦 著	化学同人		
改訂版 フォトサイエンス 生物図録		数研出版		
自由記載	講義資料、図録に沿ったプリントを配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				
予習として教科書や図録を用いて生物用語の確認をすること、日常生活で医療や科学の話題に関心を持つことを希望する。				



# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
医用英語		講義	續 なおみ	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療に関連する専門語彙と英文読解、さらに診療場面での会話体を学習することによって医療英語を修得する。教科書に基づいて授業を行い、毎回授業の終わりに授業内容の要点をプリントで確認する。				
授業の到達目標				
教科書に載っている人体の部位や疾患に関する医療英語が理解できる。 診療場面の英会話を理解し、応用できる。				
授業計画				
回	内容			
1	Chapter 5 Body Parts External Body Parts 身体の外側 / Musculoskeletal System 筋骨格系			
2	Chapter 5 Body Parts Blood & Immune System 血液・免疫系 / Respiratory System 呼吸器系			
3	Chapter 5 Body Parts Digestive System 消化器系 / Urinary System 泌尿器系			
4	Chapter 5 Body Parts Endocrine System 内分泌系 / Reproductive System (Genital System) 生殖器系			
5	Chapter 5 Body Parts Nervous System 神経系 / Sensory Organs 感覚器官 (visual organ 視覚器官)			
6	Chapter 5 Body Parts Sensory Organs 感覚器官 (auditory organ 聴覚器官) / Skin 皮膚 / Miscellaneous その他			
7	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (Reading / Word check)			
8	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (Word Study)			
9	Chapter 9 Expressions to Describe Signs and Symptoms (冠詞の用法 / bring on ... / Exercise)			
10	Chapter 10 Expressions to Describe Vital Signs (Reading / Word check)			
11	Chapter 10 Expressions to Describe Vital Signs (Word Study / Exercise)			
12	Chapter 11 Expressions to Describe Pains (Reading / Word check)			
13	Chapter 11 Expressions to Describe Pains (Word Study / Exercise)			
14	Chapter 12 Expressions to Use in the Examination (Reading / Word check)			
15	Chapter 12 Expressions to Use in the Examination (Word Study) / 復習			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
講義録 医学英語I 語彙の充実と読解力の向上	日本医学英語教育学会 編		メジカルビュー社	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
心理学		講義	尾崎 勝彦	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
心理学を身近なものとして感じ、それを自身の人生に活かしていくことを目的とする。 形ないものに興味や疑問を持ち、生きることは何かを考える機会となるような話題提供を予定している。				
授業の到達目標				
①心理学の概念や用語の意味を理解する。 ②この知識を使用して生活場面における人と心と行動について考察ができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション；「心」とは？ 「心・こころ・ココロ」のイメージ 心理学の立場・考え方・研究方法			
2	知覚と感覚；知覚の成立、体制化、諸相、錯視			
3	記憶；記憶の機能と種類、記憶テスト			
4	学習1；レスポナント条件付け、オペラント条件付け			
5	学習2；その他の学習			
6	知能；知能の定義、知能テスト			
7	パーソナリティ；パーソナリティの捉え方、パーソナリティの測定			
8	心理療法とカウンセリング1；心理カウンセリングの特徴と原理、グループワークとペアワーク(レポート)			
9	心理療法とカウンセリング2；種々のカウンセリング			
10	心理療法とカウンセリング3；森林療法の実験			
11	感情1；感情とフラストレーション、防衛機制			
12	感情2；ストレスとその対処(レポート)			
13	対人認知1；個人と集団の関係			
14	対人認知2；対人魅力			
15	全体のまとめと補足			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%	基礎的な理解ができているか。		
レポート・課題	30%	書式に従っているか、内容は妥当か。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
使用しない。ほぼ毎回プリントを配布する。				
自由記載	プリントの整理をきちんとしておくこと。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
心理学	全国歯科衛生士教育協議会 監修		医歯薬出版株式会社	
よくわかる臨床心理学 第2版	山口創 著		川島書店	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
人間関係論		講義・演習	木村 和弘	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
医療従事者は、様々な背景をもつ他者と関わり、人間関係を適切に構築する必要があります。そのために、まずは自分のことを良く知る必要があります（自分の価値観、コミュニケーションの傾向等）。そして、人の多様性を理解し、思いやりの心や他者を尊重する気持ちを持ってコミュニケーションを行うことが重要です。本科目では、コミュニケーションに関する基本的知識と態度を身につけ、協力的に人と関わる体験を通してコミュニケーションの意義と重要性を学ぶことを目的とします。ますます重要となる多職種連携のためのコミュニケーションも学びます。				
授業の到達目標				
①コミュニケーションの意義と重要性を説明できる。                      ②コミュニケーションの方法と技能を説明できる。 ③相手に関心をもって人の話を聞くことができる。                      ④話し手聞き手の役割りに基づいて適切なコミュニケーションスキルが活用できる。 ⑤コミュニケーションにより良好な人間関係を築き、このスキルを活用しチームの一員として責任を果たせる。				
授業計画				
回	内容			
1	コミュニケーションの基本      ～良いコミュニケーションとは？専門職のコミュニケーションとは？～			
2	良いコミュニケーションのための人間行動理解      その① 人間関係の形成を考える      ～愛着理論・他～			
3	良いコミュニケーションのための人間行動理解      その② 人間関係のための自己理解      ～自己覚知～			
4	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その① 傾聴のための具体的方法      ～相談援助面接の技法～			
5	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その② 傾聴の実際      ～事例を通して学ぶ～			
6	信頼関係を構築するためのコミュニケーション      その③ プレゼンテーション      ～連携の為の伝える力～			
7	対人援助職者のための人間行動理解      その① ストレスコーピング, ソーシャルサポート			
8	対人援助職者のための人間行動理解      その② 喪失・ターミナルケア      ～どのように接するべきか～			
9	患者様・ご家族様への接し方を考える      その① 医療従事者の職業倫理から考える			
10	患者様・ご家族様への接し方を考える      その② 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応①			
11	患者様・ご家族様への接し方を考える      その③ 高齢者の身体・心理的特性を理解した対応②			
12	患者様・ご家族様への接し方を考える      その④ 相手のコミュニケーションのタイプを理解した対応			
13	患者様・ご家族様への接し方を考える      その⑤ 相手の想い・ニーズを捉える      ～対応力のセンスを磨く～			
14	多職種連携とコミュニケーション      その① 多職種連携の必要性和難しさ      ～連携の促進要因・阻害要因～			
15	多職種連携とコミュニケーション      その② 全体のまとめ      ～複雑な時代に対応するために～			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	40%	選択式問題と、作文問題を出题します。		
レポート・課題	30%	毎回、講義の最後に「今日の学び」というミニレポートを書きます。別途評価基準を示します。		
小テスト				
その他	30%	毎回、個人ワーク、グループ討議を行います。取り組みの姿勢、学びについて評価します。別途評価基準を示します。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	毎回、テーマに応じた資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保健体育 I		講義・実技	田中 靖人	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>様々なスポーツ種目の実践を通してスポーツの楽しさを味わうことと、チームスポーツを通してチームワークの気持ちを理解する。 また、スポーツの必要性や安全面について理解を深め、それらを実践に活かせるようにする。 さらに、健康とスポーツに関連するトピックに関する講義を通して、スポーツへの興味や関心を高める。</p>				
授業の到達目標				
<p>スポーツ活動を通して、身体のためのスポーツを実践したいという気持ちを養うことや、スポーツの楽しさを味わうことや、コミュニケーションツールとしてスポーツが活用されていることを理解する。 また、健康やスポーツに関して興味・関心を深めることができる態度を養成する。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	講義：スポーツ活動における我が国の現状			
2	実技：ニュースポーツ1-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
3	実技：ニュースポーツ1-2			
4	実技：球技1-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
5	実技：球技1-2			
6	実技：球技1-3			
7	実技：球技2-1 (バスケットボール、バレーボール、フットサル、卓球等)			
8	実技：球技2-2			
9	実技：球技2-3			
10	実技：ニュースポーツ2-1 (アルティメット、ボッチャ、インディアカ、ドッジビー等)			
11	実技：ニュースポーツ2-2			
12	実技：ニュースポーツ2-3			
13	講義：健康づくりのために必要なこと1 (ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等)			
14	講義：健康づくりのために必要なこと2 (ダイエット、有酸素運動、メタボリックシンドローム等)			
15	講義：熱中症とその予防			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	100%	テーマに沿ったスポーツからの知識や経験が具体化されているかを述べてください。評価基準は別途指示します。		
小テスト				
その他				
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載	参考文献は定めないが、必要に応じて指示することがある。			
備考				
<p>実技受講の際には、運動にふさわしい服装で臨み、装飾品等は危険防止のため外し、貴重品類は盗難防止のためグランドや講堂には持ってこないこと。 けがや病気で実技ができない場合は報告・相談すること。 天候や進度、履修者数によって実技種目や講義日を変更する場合があります。</p>				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎医学 I		講義	宮崎 茂雄	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>種々の臨床課題に取り組んでいくためには、医療・医学への深い洞察のもと、人体の構造と機能の系統的な知識に基づき、生命現象を総合的に理解できる能力が必要になります。この能力獲得のために、【基礎医学 I】では、第 1 部として医療、医学の歴史的背景、現代的課題を理解します。続いて第 2 部では人体における生命現象を解剖学、生理学的視点から学びます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①医療・医学の歴史的背景、現代的課題が説明できる                  ②人体の肉眼的解剖の概略が説明できる                  ③人体でみられる生理学的機能の概略が説明できる</p>				
授業計画				
回	内容			
1	第 1 部	医療、医学の目指してきたもの	1	医療と医学
2		〃	2	健康への願い
3		〃	3	医療の変遷 (1) 西洋医学の変遷
4		〃		(2) 日本での変遷、統合医療
5		〃		(3) 現代医療の課題
6	第 2 部	肉眼的観察による人体の構造と機能	1	人体の基本
7		〃	2	骨格・運動器系
8		〃	3	神経系 (1) 中枢神経系の構造
9		〃		(2) 中枢神経系の機能
10		〃		(3) 脳神経と末梢神経系
11		〃	4	感覚系
12		〃	5	循環器系、免疫系
13		〃	6	呼吸器系、消化器系
14		〃	7	内分泌系、泌尿器系、生殖器系
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのための小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載	講義内容に沿った資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
からだが見える 人体の構造と機能 第1版	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
看護学入門1 人体のしくみと働き 第5版	橋本尚詞 編		メヂカルフレンド社	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
保育学		講義・演習	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は臨床の場で乳幼児やその保護者と関わり、検査や訓練を行うことがある。本科目は乳幼児の特性及び、乳幼児や保護者と関わる際の留意点等を概説するとともに、年齢に応じた対応や遊びを紹介する。また、保育における現状や課題について概説し、保護者や子どもを取り巻く社会環境の影響についても考える。				
授業の到達目標				
①乳幼児の特性について説明ができる。 ②保育を行う基本的知識とその留意点が説明できる。 ③保育における社会環境の影響について考えることができる。 ④年齢に応じた対応と環境設定を考え、子どもの親しみやすい環境をイメージし、積極的に制作活動に取り組むことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 保育とは何か			
2	子ども観とは何か 保育における子ども理解			
3	子どもが育つ環境の理解 保育における健康・安全			
4	保育の内容・方法・計画と実践			
5	保育の現状と課題			
6	現代の子育てと子育て支援			
7	遊びの観点から子どもの発達を考える			
8	子どもが親しみやすい環境の提供 演習① 壁面作成			
9	子どもが親しみやすい環境の提供 演習② 壁面制作発表			
10	子どもが親しみやすい環境の提供 演習③ 名札制作			
11	子どもが親しみやすい環境の提供 演習④ 名札制作発表			
12	年齢に応じた対応と遊び 演習① 絵本			
13	年齢に応じた対応と遊び 演習② 手遊びと折り紙			
14	年齢に応じた対応と遊び 演習③ 七夕制作			
15	保育実習における観察と記録			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	定期試験は「学びの整理」レポート 持ち込み可		
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	演習課題への取り組みや姿勢をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
自由記載	必要に応じて講義資料を配布する。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
演習で作成する課題について、事前に授業で説明する材料を各自で準備すること。				

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学概論		講義・演習	山寄 統子	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
15 時間（1 単位）		8 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>視能矯正の枠組みを理解し、3年間の視能訓練士科での学びに向けてレディネスを整えることを目的とする。視能訓練士・視能矯正の枠組みを理解できるよう、理念や歴史、倫理などといった項目に分けて講義を進めます。さらに、目指すべき視能訓練士像を描き、主体性を高め、自ら学ぶ力を身につけることを目的としています。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視能矯正の枠組みを理解する。          ②医療社会における視能訓練士の役割を理解し、自分の目指すべき視能訓練士をイメージできる。          ③イメージした将来の視能訓練士像を表現し、その実現のために学生生活での目標を組み立てることができる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス・視能矯正の理念			
2	視能矯正の歴史			
3	視能矯正の展開 ①業務の管理と運営			
4	視能矯正の展開 ②EBMとNBMによる視能矯正			
5	視能訓練士の倫理			
6	視能訓練士の教育・視能訓練士の資質と適性			
7	グループワーク「目指すべき視能訓練士になるために」			
8	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	80%	講義内容の理解度を評価する。		
レポート・課題				
小テスト				
その他	20%	グループワークの積極的な取り組み及びワークに関連する提出物をもとに評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山暁美 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理 I		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 2 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視器（眼球とその付属器）の正常構造と生理機能が説明できることを目的とします。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものになります。【視器の解剖生理 I】では眼球自体の解剖と生理を多数のイラストの入ったオリジナル資料で理解していきます。さらに、演習では教科書などを参考にして知識を深め、確実なものにしていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①視器全体の構造を明確に図示できる。                  ②眼球各部の構造と機能が説明できる。                  ③成人眼球での標準的な数値（眼軸長、屈折力など）が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	視覚と視覚器の概略	(宮崎)		
2	視覚と視覚器の概略	演習	(山本)	
3	眼球外膜：角膜・強膜	(宮崎)		
4	眼球外膜：角膜・強膜	演習	(山本)	
5	眼球中膜：ぶどう膜 (1)	虹彩・毛様体	(宮崎)	
6	眼球中膜：ぶどう膜 (1)	虹彩・毛様体	演習	(山本)
7	眼球中膜：ぶどう膜 (2)	脈絡膜・隅角	(宮崎)	
8	眼球中膜：ぶどう膜 (2)	脈絡膜・隅角	演習	(山本)
9	眼球内膜：網膜 (1)	10層構造と中心窩	(宮崎)	
10	眼球内膜：網膜 (1)	10層構造と中心窩	演習	(山本)
11	眼球内膜：網膜 (2)	網膜の構成細胞	(宮崎)	
12	眼球内膜：網膜 (2)	網膜の構成細胞	演習	(山本)
13	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体	(宮崎)		
14	眼球内容物：水晶体・毛様小帯・硝子体	演習	(山本)	
15	総括：関連する国試既出問題	(宮崎)		
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編		メディックメディア	
自由記載	講義内容に沿った資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視器の解剖生理Ⅱ		講義・演習	宮崎 茂雄・山本 雅美	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
<p>「よく見えている」ために必要な視覚系の正常構造と生理機能が説明できることを目的としています。これらの知識は視能訓練士として施行する眼科検査の意義や、各種の眼疾患の病態を理解するために必須のものです。  <b>【視器の解剖生理Ⅱ】</b>では眼球付属器、脳内での視覚伝導路と眼球運動制御機構、視器の発生と加齢変化をオリジナル資料によって把握し、教科書などを用いる演習で確実な知識に深めていきます。</p>				
授業の到達目標				
<p>①眼球付属器の構造と機能が説明できる。                  ②脳内での視覚伝導路が説明できる。                  ③眼球運動制御機構が説明できる。                  ④眼球の発生と加齢変化が説明できる。</p>				
授業計画				
回	内容			
1	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器（宮崎）			
2	眼球付属器：眼瞼・結膜・涙器 演習（山本）			
3	眼球付属器：眼窩・外眼筋（1）（宮崎）			
4	眼球付属器：眼窩・外眼筋（1） 演習（山本）			
5	眼球付属器：外眼筋（2）（宮崎）			
6	眼球付属器：外眼筋（2） 演習（山本）			
7	眼と脳：視覚伝導路（宮崎）			
8	眼と脳：視覚伝導路 演習（山本）			
9	眼と脳：眼球運動制御機構（宮崎）			
10	眼と脳：眼球運動制御機構 演習（山本）			
11	眼球の発生と加齢変化（宮崎）			
12	眼球の発生と加齢変化 演習（山本）			
13	総括（1）：関連する国試既出問題（宮崎）			
14	総括（2）：視器の解剖生理Ⅰまとめ（山本）			
15	総括（3）：視器の解剖生理Ⅱまとめ（山本）			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%	定期試験のみで評価します。		
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解度のセルフチェックのために小テストを講義ごとに実施します。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
病気がみえる vol.12 眼科	医療情報科学研究所 編	メディックメディア		
自由記載	講義内容に沿った資料を配布します。			
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能検査学総論		講義・演習	荻野 綾	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間 （ 2 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視能訓練士は、数多くの検査機器を用いて眼科検査を行います。本講義では、検査機器の取り扱いに関する概要、検査実施時の心得について説明し、検査機器の基本的操作の体得および、患者の気持ちや身体の状態に配慮しながら安全を意識した検査が行えるようになることを目的とする。さらに、視能検査学の学びに欠かせないレポートについて基本的な書き方を習得する。				
授業の到達目標				
①検査機器の基本的知識を説明することができる。 ②患者の心理面、身体面、安全面に配慮した検査と基本的機器操作を実施することができる。 ③レポートの書き方を理解し、課題に対して適切にレポートで表現することができる。 ④瞳孔間距離計測検査を正しくを測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス（視能検査学とは） 眼科検査の経験を振り返る			
2	視能検査機器の基本的知識・安全管理・メンテナンス			
3	視能検査の基本①【身だしなみ】（実習室）			
4	視能検査の基本②【機器の基本操作と誘導】（実習室）			
5	視能検査の基本③【暗室誘導】（実習室）			
6	レポートとは（レポート課題①）			
7	レポートの書き方			
8	レポート作成の実践			
9	患者・医療者の心理を考える①【小児】（レポート課題②）			
10	患者・医療者の心理を考える②【家族】（レポート課題③）			
11	瞳孔間距離計測検査①（基本編）			
12	瞳孔間距離計測検査②（応用編）			
13	課題研究【データ収集】（レポート課題④）			
14	課題研究【レポート作成】			
15	視能検査学総論の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	70%			
レポート・課題	20%	課題に対し適切にレポート作成ができているかを評価する。評価項目は別途示す。		
小テスト				
その他	10%	実技試験により習熟度を評価する。評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
基礎視能矯正学 I		講義・演習	山本 雅美	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
基礎視能矯正学 I では眼位と両眼視、外眼筋の作用、眼球運動について学びます。ここでの知識の習得は後の視能矯正学等の発展に不可欠です。まずは正常を理解し、視能障害を分析的に考える力を養います。				
授業の到達目標				
視能矯正学・視能訓練学に発展するために眼位と両眼視、眼球運動の基本的知識を習得する。 ①正常両眼視機能の成立を理解する。      ②複視の起こり方を眼位別にイメージができる。 ③網膜対応を状態別にイメージができる。      ④外眼筋の作用、眼球運動のメカニズムを理解する。				
授業計画				
回	内容			
1	ガイダンス 眼位の定義 眼位の種類 眼位の状態 斜視・斜位の種類			
2	両眼視の定義 正常両眼視機能 (両眼視野 実際空間と視空間 網膜対応) 確認テスト①(眼位)			
3	正常両眼視機能 (ホロプタ円 Panumの融像感覚圏)			
4	正常両眼視機能 (同時視 融像)			
5	正常両眼視機能 (深径覚 静的立体視と動的立体視 抑制) 両眼視機能の発達 両眼視機能成立の条件			
6	確認テスト② (両眼視)			
7	両眼視機能の異常 (両眼視機能の異常と程度 複視)			
8	両眼視機能の異常 (複視 抑制 混乱視)			
9	確認テスト③ (複視)			
10	両眼視機能の異常 (網膜対応異常)			
11	確認テスト④ (抑制 混乱視 ARC)			
12	外眼筋の単独佐用			
13	単眼運動とその法則・両眼共同運動・離反運動・共同筋と拮抗筋			
14	確認テスト⑤ (外眼筋)			
15	まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	理解の確認のため随時小テストを行う。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
視能矯正学 改訂第3版	丸尾敏夫 編	金原出版		
視能学エキスパート 視能訓練学 第2版	若山曉美 他編	医学書院		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
幾何光学		講義	荒木 渚	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
眼科で取り扱う検査機器には多くのレンズが使用されています。この授業では、光学の基礎を修得するために「光の性質と特徴」と「レンズの作用」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①光の性質を説明できる。②レンズの構造や結像を図示することができる。③レンズ屈折力の計算ができる。④プリズムの計算ができる。⑤眼球の光学的特性を説明できる。				
授業計画				
回	内容			
1	光の性質			
2	光の単位、屈折率			
3	屈折の法則			
4	臨界角と全反射			
5	確認テスト			
6	レンズの種類、レンズの主要点			
7	レンズの屈折力			
8	レンズによる結像			
9	Vergence、レンズの倍率			
10	プリズム① 偏向角の計算			
11	プリズム② プリズム合成			
12	プリズム③ Prenticeの法則			
13	鏡、収差 授業開始時期：生理光学 I 第1回終了後			
14	模型眼、眼の軸と角度			
15	フィルター、まとめ			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。			
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
視能学 第3版	小林義治 他編		文光堂	
視能学エキスパート 光学・眼鏡 第2版	松本富美子 他編		医学書院	
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著		金原出版	
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編		医学書院	
自由記載				
備考				
定規を持参してください。				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I		講義	荻野 綾	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力は眼の状態を把握する上で大切な指標であり、視力に影響する因子の1つに屈折異常があります。この授業では、視力検査や屈折検査に関する基礎知識を身につけるために「視力とその検査の理論」、「屈折異常」を理解することを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力の概念を説明できる。 ②屈折異常の定義とその矯正方法を説明できる。 ③レンズ度数をパワークロスで示すことができる。 ④視力や屈折に関連する演習問題を解くことができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力の評価 授業開始時期：幾何光学第7回終了後			
2	Landolt環の計算①			
3	Landolt環の計算② (応用) ・縮視力			
4	正視・近視			
5	遠視			
6	確認テスト			
7	屈折度と遠点			
8	屈折矯正 (近視、遠視)			
9	レンズ装用時の屈折度と遠点			
10	まとめ (第1～9 講義内容)			
11	乱視			
12	屈折矯正 (乱視)			
13	軸転換			
14	等価球面度数			
15	まとめ (第11～15講義内容)			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	100%			
レポート・課題				
小テスト				
その他				
自由記載	習熟度の確認のため随時小テストを実施するが、評価には含まない。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう 視力検査 屈折検査	所敬 監修	金原出版		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著	金原出版		
自由記載				
備考				

# 令和8年度シラバス

視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
生理光学 I 演習		講義・演習	荻野 綾・山寄 統子	
時間数 (単位数)		授業回数	年次	開講時期
30 時間 ( 1 単位)		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
視力屈折検査は眼科検査を代表する最も有名な検査です。生理光学 I で学習した内容を基に、検査の実践ができることを目的とします。				
授業の到達目標				
①視力値の判定ができる。 ②球面レンズ矯正ができる。 ③結果を記載できる。 ④オートレフラクトメータを用いて眼の屈折値を測定することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	視力検査、カルテに用いる略語【講義】 授業開始時期：生理光学 I 第3回終了後			
2	視力測定 (視力0.1~1.2) 【演習】			
3	視力測定 (視力0.1以下) 【演習】			
4	近視矯正の方法【講義】 授業開始時期：生理光学 I 第9回終了後			
5	近視矯正 (レフなし) ①【演習】			
6	近視矯正 (レフなし) ②【演習】			
7	遠視矯正の方法【講義】			
8	遠視矯正 (レフなし) 【演習】			
9	雲霧法 (遠視、調節痙攣) 【講義】			
10	球面レンズ矯正 まとめ【講義】			
11	赤緑試験【講義】			
12	オートレフラクトメータ【演習】 授業開始時期：生理光学 I 第14回終了後			
13	球面レンズ矯正 (レフあり) ①【演習】			
14	球面レンズ矯正 (レフあり) ②【演習】			
15	球面レンズ矯正 (レフあり) ③【演習】			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験	50%			
レポート・課題				
小テスト				
その他	50%	実技試験により習熟度を評価する(40%)。必要な準備の達成度を評価する。評価基準は別途示す(10%)。		
自由記載	再試験は定期試験(50%)、実技試験(50%)で評価する。			
教科書				
書名	著者・編集者名	出版社名		
視能学 第3版	小林義治 他編	文光堂		
目でみる 視力・屈折検査の進めかた 第2版増補	所敬・山下牧子 著	金原出版		
視能学エキスパート 視能検査学 第2版	和田直子 他編	医学書院		
眼科検査ガイド 第3版	根木昭 監修	文光堂		
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名	出版社名		
理解を深めよう 視力検査 屈折検査	所敬 監修	金原出版		
屈折異常とその矯正 改訂第7版	所敬 著	金原出版		
自由記載				
備考				

## 令和8年度シラバス

## 視能訓練士科

神戸総合医療専門学校

科目名		授業形態	担当教員名	
視能学特論 I		講義・演習	荻野 綾・荒木 渚	
時間数（単位数）		授業回数	年次	開講時期
30 時間（1 単位）		15 回	1 年次	前期
授業の目的・概要				
本科目では、視能訓練士として必要な基本的資質の向上を目指す。クラスメイトだけでなく、他学年や他学科との交流を通して、コミュニケーションスキルを育成し、良好な人間関係を構築するための方法を認識・実践することを目的とする。また、学習方法を学び、知識の定着を図ることも目的とする。				
授業の到達目標				
医療従事者として望ましい言葉遣いができる。 他者との円滑なコミュニケーションが取れる。 学習習慣を定着することができる。				
授業計画				
回	内容			
1	オリエンテーション①（学校案内）			
2	オリエンテーション②（勉強の取り組み方）			
3	眼科検査を被検者として体験する			
4	課題学習①			
5	課題学習②			
6	課題学習③			
7	レクリエーション①			
8	レクリエーション②			
9	科目学習①			
10	科目学習②			
11	合同実習に向けた練習①			
12	合同実習に向けた練習②			
13	2年生との合同実習			
14	合同実習振り返り・実技試験練習			
15	1年前期の学びを振り返る			
成績の評価方法と基準				
種別	割合	評価基準・その他備考		
定期試験				
レポート・課題	60%	提出物により評価する。提出期限を守れない場合は減点とする。評価基準は別途示す。		
小テスト				
その他	40%	評価基準は別途示す。		
自由記載				
教科書				
書名	著者・編集者名		出版社名	
なし				
自由記載				
参考文献				
書名	著者・編集者名		出版社名	
自由記載				
備考				
授業予定は前後することがある。				